

# 用語集

## あ行

### 圧縮エア

製品の水切り・異物の吹き飛ばしなどで強い力を得るため、大型コンプレッサで空気を圧縮してつくる高圧エアのこと。圧力が低いエアはブロワ（扇風機のようなファン）で得る。

### アルカリイオン洗浄

アルカリイオン水を使った洗浄法。アルカリイオン水は電解水の種類で、直接採取またはアルカリイオン整水器で作る。この水による洗浄は、油脂汚れを落とす効果が高く、再汚染を予防し、低コスト化が図れる。界面活性剤を使用しないため人や環境への安全性が高い。

### 安全点(労働安全衛生)

災害評価のための独自指標で、災害の大きさと種類に応じて点数化したもの。低いほどよい。種類は、管理監督責務の大小により1種・2種・3種に区分して点数を配分。また、災害発生に至った要因を未然防止の視点から作業面・設備面・管理面について評価し、点数を補正する。

### エコ診断

デンソーにおける環境監査のこと。監査診断と同時に指導の徹底・情報共有・他部門への展開なども行うことから、一般的な監査よりも広義の意味で呼称している。

### エジェクタ

エジェクタとは、蒸気などをノズルから噴流し、噴流部出口の負圧を利用して他の流体を吸引するポンプのことで、ガス設備などいろいろな分野で利用されている。従来の冷凍機は、膨張弁で冷媒を膨張させることで熱を奪い空気を冷やすが、この時に多くの運動エネルギーが渦となって失われる。そこで、エジェクタサイクルでは、減圧装置にポンプであるエジェクタを採用することにより効率低下を防止し、エネルギー効率を大幅に高めた。

### エネルギー JIT

エネルギーを「必要なものを必要な時に必要な量だけ」を使うという省エネルギーを徹底するための考え方。トヨタ生産方式

のジャストインタイム (JIT) になぞらえたキーワードで、デンソーでは物流はもちろん、製造・生産における電気エネルギーなどの効率化でJITを導入し、大きな効果を出している。

## か行

### 外来工事重大災害

デンソー構内において、請負作業で発生した重大災害(死亡事故など)のこと。

### 環境会計

企業が環境対策費用やその効果を定量的に把握し、効率的に環境改善・環境経営を推進するための手法。ステーキホルダーに説明責任を果たすための重要な情報・資料にもなる。環境省発行の「環境会計ガイドライン」に沿って算定・公表。

### 技能五輪国際大会

満22歳以下の若手技能者を対象に、機械加工から家具・造園・美容・菓子など約40の職種で高度な技能を競う。職業訓練の振興と親善・交流を目的とし、国内大会での選抜を経て2年ごとに開催される。同様の目的で、障がいを持つ技能者を対象とする「国際アビリンピック」も開催されている。デンソーは技能五輪に1963年初参加し、1977年に初の金メダルを獲得。

### クライシス・コミュニケーション・マニュアル

企業のリスク管理において、クライシス(危機)発生時に迅速・的確な初動対応をグループ内で徹底するため、対応基準・手順・方法などを具体的に“見える化”したマニュアル。各部門責任者がその内容を十分に理解した上で部門内に浸透・徹底を図る。

### クリーンエネルギー車

日本では、ハイブリッド車、天然ガス(CNG)、ディーゼル代替LPG、電気などを利用して走る自動車指し、CO<sub>2</sub>排出量削減・排出ガス浄化の観点から普及が拡大している。

### グリーン電力

太陽光・風力・バイオマス・地熱など温室効果ガスや有害ガスの排出が少なく、環境への負荷が少ない自然エネルギー(再生可能エネルギー)で発電された電力。

### 減速(エネルギー)回生

減速時に発生する運動エネルギーで発電機を回し、電気エネルギーとして二次電池に蓄えてエネルギーを回収利用するシステム。減速時の発電でバッテリーを集中充電することで、アイドリング・加速・クルーズなどの走行条件下での発電抑制を可能にし、エンジン負荷が軽減して燃費が向上(CO<sub>2</sub>低減)する。電気自動車やハイブリッド車以外の一般的な自動車では、減速時にオルタネータ(発電機)を高負荷で稼働するよう制御して燃費を向上させるタイプもある。

### 原単位

生産効率や環境負荷を客観的に把握するため、製品(製造)の年間売上や単位生産量(1台当たり)などに対して、必要なエネルギー・CO<sub>2</sub>排出物などを示した指標。活動を行うための必要な量を指し、デンソーでは主にCO<sub>2</sub>や排出物の削減効果を計る指標として活用している。

### 現地調達率

製品の生産に必要な部材の中で、国産化(現地化)の比率を示す指標。最終製品の生産金額を分母とし、国産(現地)での調達金額を分子として算出。

### コージェネレーション

ひとつの燃料源から複数のエネルギー(電気、熱など)を取り出すシステムで、熱電供給といわれる。デンソーでは都市ガスを使ってタービン・エンジンで発電し、その際に発生する熱で蒸気をつくり動力や冷暖房などに活用する。エネルギー効率が70~80%と高く、CO<sub>2</sub>排出量も20~30%削減できる。

### コーポレート・ガバナンス

企業の経営の監視・規律・その仕組みを指し、「企業統治」とも訳される。企業の不祥事を教訓に米国では1990年代に体制の整備が進み、その後、日本でも同様に企業運営の監督・監査の必要性が認識されるようになった。経済協力開発機構(OECD)では、1999年に「コーポレート・ガバナンス原則」を策定し(2004年改訂)、内部統制を構築する上で国際的な指針のひとつとなっている。

### 5ガス(温室効果ガス)

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)以外の温室効果ガスのうち、京都議定書で削減対象となっているメタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六フッ化硫黄の5種類。

### 構造改革検討月間

2008年10月以降の世界同時不況を背景に、2009年2月20日を『構造改革検討の日』として、全社員が現状の課題と今後の改善策を検討したことをきっかけに、2010年2月を構造改革検討月間と制定。2010年は、社外講師の講演、トップメッセージの発信、全社員での話し合いなどを実施。

### コンプライアンス

法令・規則および社会倫理を順守することで、CSR活動およびCSR経営の基盤を成すもの。コンプライアンスリーダーは、各職場における理解浸透・意識啓発の推進役。デンソーでは2006年度に職場ごとにCSRリーダーが兼任する形で1名を設置し、その後、グループ会社にも拡大した。北米の拠点では「コンプライアンス・オフィサー」が同様の役割を担っている。

## さ行

### サービス店

国内では1954年に指定サービスステーション制度を発足以来、デンソーと契約した約700の指定サービス店・特約店が、当社製品の点検・修理、補給部品の販売、カーエアコン冷媒のフロン回収などを行っている。海外では現地販売店・代理店が運営または提携する3,000以上のサービス店が同様の業務を行っている。

### 社員・家族の安否確認システム

大地震が発生した際、社員が自身の安否をパソコンや電話などを通じて当システムに登録することで、対策本部メンバーや職場管理者が部下の安否を把握・確認できる。

### 重大災害

労働安全衛生活動における「死亡災害」のこと。

### 情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)

企業などの組織が情報を適切に管理し、機密を守るための包括的な仕組み。情報を扱う際の基本方針、具体的な計画、実施・運用、見直しの一連の流れを継続的に改善してリスク管理を行う。ISOが定めた国際規格もある。

### 少年少女発明クラブ

1974年、(社)発明協会が科学技術への夢を育み創造力豊かな人間形成を目的に設立した全国的な団体。デンソーは1997年から支援を開始し、愛知県刈谷市・西尾市・安城市、三重県いなべ市の各クラブの小学生を対象に、社員がボランティア講師としてモノづくりを通じた創造学習を実施。

### 職業性疾病

慢性中毒や慢性的な腰痛など一定の職業に従事するためにおこる疾病のこと。

### 職場力

室・課のマネジメント向上を目的とする調査の指標。上司・職場環境の実態について、半期に1回、事務・技術部門を中心にアンケート調査を行い、その結果が室長・課長にフィードバックされ、改善に活用される。

### 人事インジケーター

海外拠点における欠勤率・退職率・平均勤務時間などの人事関連情報を毎月集約し、数値の推移を一覧にまとめた資料。潜在的な労務リスクの把握や労務問題の未然防止に活用する。

### 信頼性センター

2006年にデンソー本社の一角に建設した研究開発施設。人工的に過酷な気象条件や悪路での評価試験や高度な解析を通じて、製品の信頼性評価および信頼性向上の研究を行っている。

### ステークホルダー・ダイアログ

ステークホルダーは、企業活動に直接・間接的に影響を与える利害関係者。顧客(エンドユーザー・納入先・代理店・サービス店など)・株主・投資家・社員・仕入先・行政・NPO・NGO・一般市民などのほか、環境マネジメントでは地球そのものを重要な

ステークホルダーと位置付ける企業も多い。ダイアログは、良好な関係を築くための対話活動で、直接的な意見交換のほか説明会やアンケートなどを通じた意見収集も含まれる。

### 生物多様性

生物に見られる様々な姿・形・生活様式などの変異性を総合的に示す概念で、すべての生物は互いに影響を及ぼしながらバランスを保っているとの考え方から、生態系・種・遺伝子それぞれの多様性の保全が必要とされている。多くの種の絶滅が懸念される中で1992年の地球サミットで「生物多様性条約」が締結され、国際的な取り組みが進められている。

### 絶滅危惧種

急激な環境変化・移入生物・乱獲などが原因で、種を維持できないほど個体数が減少して絶滅寸前となった動植物の種。国際自然保護連合は、これらの種を危機レベルごとに分類した「レッドリスト」を公表し、日本でも環境省や都道府県が「レッドデータブック」を作成して警鐘を鳴らしている。

### ゼロエミッション

1994年に国連大学が提唱した考え方で、ある産業の廃棄物を別の産業の原料として活用し、社会全体での排出物(emission)をゼロにしようとするもの。埋立廃棄物、焼却処理廃棄物をゼロとする狭義の意味もあり、デンソーもこれに準じている。

## た行

### 直課制度

各部がエネルギー(電気・ガス・エアなど)や水の利用量、排出物処理費用などを課金されて直接負担するデンソー独自の制度。1992年にコスト意識の浸透を図るために開始した。

### デンソーエコビジョン2015

2005年に策定した環境重視のグループ経営を示す中長期の指針。コミットメント、環境方針(エコマネジメント、エコプロダクツ、エコファクトリー、エコフレンドリー)を設定している。

### デンソー ECOレンジャー 21

2001年、地域社会の要請に応え、次世代を担う小中学生を対象に開始した体験型環境教育プログラム。テーマごとに環境や地元の専門家を講師に招き、デンソー社員もボランティアとして運営に参加している。

### デンソー安全環境基準

通称:DAS。社員が安全衛生および環境保全上、守るべき事柄を定めた社内基準。社員就業規則にも、DASの順守とともに災害の防止・健康の増進・快適な職場環境の形成および社会環境の保全に努めることを義務付けている。

### デンソー工業技術短期大学校

(株)デンソーが運営する厚生労働省認定の企業内短期大学。1987年の開設だが源流は創業間もない1954年の「技能者養成所」にさかのぼる。社会人として処遇(手当・賞与・福利厚生など)を受けながら、訓練生という立場で学んでいただく。

### デンソー太陽(株)

障がい者の社会参加と自立を支援するため、1984年に社会福祉法人「太陽の家」と共同で設立した特例子会社。工場内はすべてバリアフリー化され、主に自動車用コンプレッションメーターを製造。

### デンソーグループハートフルデー

世界各国・地域のグループ会社が任意の日を「ハートフルデー」と設定し、「Turn Compassion into Action(思いやりを行動に)」をスローガンに、社員参加による地域貢献に重点的に取り組む活動。2004年にデンソー創立55周年を契機に創設。

### デンソーハートフルクラブ

社員のボランティアグループとして1998年に発足。世話人を中心とした有志の社員による自主運営組織で、製作所ごとに組織化され、ボランティアイベントの企画・運営を行っている。

### デンソービジョン2015

2004年に策定した長期経営指針。デンソー基本理念の実現に向け、2015年に真のグローバル企業としての「めざす姿」を示し、3つの方針(技術開発、事業展開、

マネジメント・人)と6つの重点課題を設定している。

### 道場

デンソーの製作所・工場に設置されている技能訓練を主とする教育施設で、環境・保全・QC・匠技能など特定分野に精通した道場主(熟練者)が教育を行っている。

### トレーニングアカデミー

2005年にタイに設置した技能訓練を主とする教育施設。「モノづくりは人づくり」をモットーに、生産・保全・安全・技術などの実習からマネジメント(学科)・しつけ教育まで現地研修生を教育している。

### は行

#### はあとふる基金制度

役員・社員の希望者から毎月の給与・賞与から100円単位で天引きし、基金として積み立てる制度。資金はNPO・ボランティア団体に寄付し、活動資金や自然災害義捐金として活用されている。2004年に創設。

#### パーフェクトエネルギー工場(PEF)づくり

生産効率を高めながら、あらゆる段階でエネルギー損失を限りなくゼロに近づける活動。エネルギー消費の見える化・最小化、全員参加、改善のやりつきが原動力。

#### バイオ燃料

生物体(バイオマス)の持つエネルギーを利用したアルコール燃料や合成ガス。主に原料となる植物の成長過程で大気中のCO<sub>2</sub>を吸収するため、燃焼しても化石燃料(石油・石炭・天然ガスなど)のようにCO<sub>2</sub>増加とならないとみなされる。

#### プラグインハイブリッド車(PHV)

差込プラグでコンセントから直接バッテリーに充電できるハイブリッド車。ガソリンエンジン車の長距離航続性能を残しながら特性を電気自動車により近づけた。

### ま行

#### 見える化

情報・データ・課題・進捗度などを指標・

点数などにより客観的に数値化し、分かりやすく示すこと。デンソーは環境取り組みのPDCAサイクルの全段階で“見える化”を推進しているほか、技術・事務部門の業務改善でも手法を応用して継続的なレベル向上を図っている。

#### モーダルシフト

環境負荷のより少ない輸送手段に変更すること。一般的には、トラックによる多頻度な貨物輸送から鉄道や船舶による大量輸送に切り替え、エネルギー消費(CO<sub>2</sub>排出)・窒素酸化物の排出・渋滞の発生などを抑制すること。

### ら行

#### リスク管理ハンドブック

社員一人ひとりが様々なリスクの理解を深め、万一、リスクに遭遇した際に的確な対応ができるよう全社員が常時携帯する小冊子。火災・地震・交通事故など身近なリスクへの初動対応措置を記載している。

#### 量産技能

日々の生産量の変動や生産品目の変化、突発事象に対応し、高品質・高精度・高生産性を確保しながら安定した量産を実現するための製造現場の技能。

### わ行

#### ワイガヤブラン

各職場における「動機付け・ねざらい・親睦」の観点から、人と人との結び付きを強めるイベントに費用補助を行う労使職場活性化支援制度。ワイワイガヤガヤと職場の仲間が集い、一体感の醸成やチームワーク強化を図り、職場のさらなる活性化を図る。

**アルファベット(A~Z)****BCP(事業継続計画)**

Business Continuity Planの略。リスク管理手法のひとつ。企業が自然災害・大災害・テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合、事業資産の損害を最小にとどめつつ、中核となる事業の継続や早期復旧を可能とするため、平常時に行うべき活動および緊急時における対応・手段を取り決めておく計画。

**CSR絵本『デンとソーのしあわせづくり』**

デンソーのCSR活動を「モノづくり・環境保全・社員尊重・社会貢献」の分野で、分かりやすく絵本仕立てで紹介した冊子(09年度発行)。デンソーホームページより入手可能。

**URL** <http://www.denso.co.jp/ja/csr/report/index.html>

**CSRサーベイ**

CSRに関する意識・理解などの社内浸透度を調べるアンケート調査。デンソーでは2006年に開始し、無作為で約3,000名の社員を抽出して行っている。

**CSRリーダー**

職場でのCSRに関する意識啓発の推進者。部単位で1名を配置し、国内・海外グループ会社にも配置している。

**DECOボン**

デンソーエコポイント制度の略称。社員の環境行動に対してポイントを付与し、貯まったポイントをエコ商品との交換や地域団体の環境保護活動の寄付に活用してもらう。2005年の「愛・地球博」における「EXPOエコマネー事業」をデンソー独自の取り組みとして制度化したもので、2006年12月に運用開始。

**ELV(廃車)指令**

使用済み自動車から出る廃棄物を削減し、回収・再利用を促進するため、2000年にEU(欧州連合)が採択した指令。製造者は自動車の設計の際に有害物の使用を削減する努力とリサイクル材料の使用増加が義務付けられた。これに伴い2003年7月以降に販売する自動車に水銀・六価クロム・カドミウム・鉛の使用が禁止された。但し、代替が困難な物質は適用除外。

**FAローテーション制度**

プロ野球のFA(Free Agent)にちなむ人事制度で、同一の部署に長く滞留した社員が異動によって自らのキャリアデザインを実現したいと望む場合、希望部署との直接交渉権を与え、上司の拒否権なしで異動できる制度。

**GRI**

Global Reporting Initiativeの略称。企業・団体のサステナビリティ(持続可能性)報告の国際的なガイドラインの作成・普及を目的に1997年に設立された国際組織。オランダに本部があり、世界の様々な企業や非営利団体などが参加している。環境・社会・経済面での報告の指針を示したガイドラインは、多くの企業が報告書作成の参考としている。

**IPCC**

Intergovernmental Panel on Climate Changeの略。気候変動に関する政府間パネル。国連環境計画(UNEP)と世界気象機関(WMO)が1988年に設立。専門家で作る地球温暖化に関する科学的な研究の収集・整理のための政府間機構で、数年ごとに発行する「評価報告書」は各国の政策に大きな影響を与える。2007年、その活動によりノーベル平和賞受賞。

**ISO26000**

企業に限らず組織の「社会的責任」(Social Responsibility)に関する第三者認証を目的としない国際ガイダンス規格。ISO(国際標準化機構)で2001年から検討がはじまり、2005年に規格作成がスタートし、2010年秋に発行予定。

**ISO/TS16949**

品質マネジメントシステムの国際標準規格であるISO 9001に、自動車産業向けの固有要求事項を付加した規格。

**LCA**

Life Cycle Assessmentの略。製品やサービスのライフサイクル(調達・製造・輸送・販売・使用・廃棄・再利用)を通じて、その環境影響を評価する手法。なお、この一連の工程でCO<sub>2</sub>排出量などを把握することをインベントリ分析という。

**OHSAS18001(労働安全衛生)**

労働安全衛生マネジメントシステム(Occupational Health & Safety Management System:OHSMS)の国際規格。英国規格協会が開発したBS8800規格をベースに約30カ国の審査登録機関・標準団体などが集まり1999年に発行。方針・計画・実施・評価・改善をPDCAサイクルでまわして継続的に労働安全衛生活動を推進する。

**PDCAサイクル**

設定した目標(Plan)が計画通り実行(Do)されているか点検(Check)し、必要に応じて見直して次の行動で継続的な改善を図る(Action)一連の活動。環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の推進手法として定着し、最近では様々な改善活動で応用されている。

**PL(製造物責任)予防活動**

製品の欠陥により派生する安全問題などお客様への損害を未然防止するための製品安全性確保の活動。

**QCサークル活動**

品質管理(Quality Control)の向上を目的とする小集団による改善活動。主に製造現場の職場単位でチームをつくり、工程から職場環境まで幅広いテーマでアイデアを出し合い、継続的な改善を行う。日本製品の品質を支える原動力として世界的にも高く評価されている。

**WAFCA(ワフカ)**

アジア車いす交流センター。Wheelchairs and Friendship Center of Asiaの略称。